



中部農林だより

元気の芽

祝 増田さんの牛、全国へ！



今年は「和牛」オリンピックYEARです

5年に1度、全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う「和牛のオリンピック」第12回全国和牛能力共進会（以下「全共」）が、今年10月に鹿児島県で開催されます。

全共に出場する宮崎県代表牛を決定するため、小林市の小林地域家畜市場において、8月2日（火）に肉牛の部、6日（土）に種牛の部の選考会が開催されました。

種牛の部の選考会には、中部管内の予選を勝ち抜いた5区分14頭が参加し、5区（高等登録群）で、宮崎市の増田純一さん御一家が出品した3頭が県代表として出品されることが決定しました！

全共には、本県から種牛の部6区分、肉牛の部2区分、特別区（高校及び農業大学校の部）1区分に、県代表23頭が出品されます。

4大会連続となる最高賞・内閣総理大臣賞の獲得を目指し、オール宮崎で一丸となって取り組みます。



めざせ！日本一！！

増田さん御一家（写真提供：JA宮崎中央企画管理課広報係）

[農畜産課]

全共の3部門



種牛の部＝
スタイル重視！



肉牛の部＝
肉質重視！



高校及び農業大学校の部＝
将来性重視！

牛界の『カムカム』

- **5区（高等登録群）とは**
高等登録（優れた資質を持つ）の母牛と娘牛、孫娘牛の3頭で1群として出品。
母牛の直系の娘、孫娘と代を重ねる毎に、その資質を受け継ぎながら、更に改良が進んで優れた牛となっているかどうか審査されます。

- **5区代表牛**
母 ひかる 1 (H22.10.20生)
娘 ひかる 12 (H25.9.20生)
孫娘 ひかる127 (R 3.3.18生)

- **出品者**
増田純一さん、裕輔さん、くるみさん
増田さん御一家は、今年1月に純一さんが息子さんである裕輔さん・くるみさん御夫妻に経営を継承しました。
これまで培った技術や経験も継承しながら、家族一丸となって挑みます。

※ 今回の「元気の芽」は、宮崎県総合博物館で好評開催中の「モンスター水族館」とコラボしてお届けします。（水モンイラスト提供：宮崎県総合博物館）



宮崎の海を守る! ～ヒラメの稚魚を放流しました～

県内の多くの漁協では、水産資源の維持・回復を目的に、人の手で育てた魚の稚魚（人工種苗）の放流が行われています。

今年も5月30日（月）に、延岡市熊野江町にある一般財団法人宮崎県水産振興協会にて育てられた約8cmのヒラメの稚魚を、宮崎市内3か所（一ツ瀬川河口、宮崎港内、青島沖）に計約4万尾放流しました。

ヒラメの成長は早く、1歳で約30cm、3歳で約50cmになります。もしも河口や砂浜での投げ釣り・ルアー釣りで、小さなヒラメ（釣り人は小さいヒラメのことを「ソゲ」と呼んでいます）が掛かったら、大きくなって帰ってくることを願って逃がしてやってください。

漁協・漁業者は、ほかに、カサゴやアマダイなどの人工種苗の放流、マダイやイセエビなど小型魚の再放流、禁漁期・禁漁区の設定、海岸・海底の清掃などにも取り組み、水産資源の維持・回復に努めています。

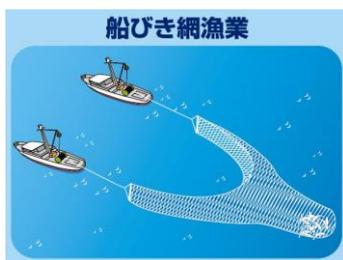
皆さんも、小さな魚が釣れた際にはリリースするとともに、海や川の環境保全に御協力をお願いします。



今は手のひらサイズのヒラメ（通称ソゲ）
1歳で約30cm、3歳で約50cmに

宮崎県漁業協同組合
連合会HPより

こんな漁業、やってます



県内、特に中部農林振興局管内では、船びき網漁業がさかんです。

3隻で操業し、2隻はゆっくり走りながら網を曳き、残り1隻は漁獲物の運搬を行います。

主な漁獲物はカタクチイワシの稚魚でシラス干し（ちりめん）の原料となります。

「宮崎ちりめん」は鮮度が良く高品質です。主に京阪神市場、遠くは関東の市場に出荷され、市場では**日本一**との高い評価を得ています。

お近くに漁業就業希望の方がいらっしゃいましたら、是非お問い合わせください！

県立高等水産研修所 ☎0987-22-2058
宮崎県漁村活性化推進機構 ☎0985-75-0022

コロナ禍で「釣りブーム」到来!

Let's Go ファミフィ!!



マナー守ってな

ファミフィ：家族で楽しむ釣り（ファミリーフィッシング）



知ってる? チリモン

ちりめんには混ざっているイカ・タコ・エビ・タチウオ等の稚魚
通称「チリメンモンスター」のことだよ。



子どもと一緒に探したら、盛り上がる間違いなし。

スマート農業の推進 ～ICT技術を活用した自動給水栓現地研修～

大淀川右岸地区の一部受益地（清武町、田野町）には、令和3年度に九州農政局宮崎中部農業水利事業所により、ICTモデル事業を活用した自動給水栓59台が設置されています。

6月3日（金）、清武町内の水田において、「スマート農業の推進」を目的とした現地研修会を開催し、宮崎県内の関係機関から46名に御参加いただきました。

研修では、実際に各自がスマホやタブレットにアプリを入れ、遠隔操作による効果の検証を行いました。

農業者代表として参加された大島堰土地改良区理事長（串間市）からは、「これからほ場整備を行うので是非導入したい」との発言もあり、ICT機器の普及につながる研修会となりました。

実際の利用者からも「作業が楽になった」などの声があがっています。今後とも、ICT化による効率的な営農を推進していきます。

特徴

- 遠隔操作で、ほ場に行かずに水管理ができる
- 夜間や早朝の給水も手間いらず

効果

- 水管理労力の低減
設定により自動的に給水作業が行われるため、水管理労力が低減
- 無効放流の低減
給水栓の閉め忘れや降雨による水位上昇等による無効放流の低減



自動給水栓

現地研修会の様子

参加者の声



操作に慣れれば簡単そう!

水管理の手間を他の作業に回せるから、農業の幅が広がりそう!



[農村計画課]

人材育成

県立宮崎農業高校の工事現場研修

7月7日（木）、県立宮崎農業高等学校環境工学科3年生の工事現場研修を実施しました。

この研修は、毎年、県と宮崎県農村振興技術連盟が企画して行っているもので、今回は正蓮寺地区排水機場、新井手頭首工、村内地区用水路整備ほか、天神ダムで農林水産省が実施した選択放流施設やダム操作の見学を行いました。

生徒たちは、真剣に担当者の説明に耳を傾けていました。実際の現場を体験することで、これまでに学習したことがより実感できたのではないかと思います。

今後この高校生たちが、農業土木技術者として、それぞれの進路先で活躍されることを期待しています。



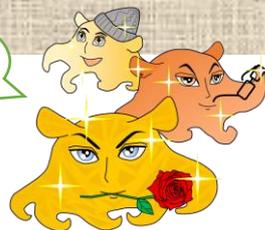
村内地区用水路整備



新井手頭首工



天神ダム選択放流施設



愛鳥作品コンクール

県では、野鳥保護の推進と愛鳥思想の普及啓発を図るため、愛鳥作品コンクールを毎年実施しています。今年度は、管内の小・中・高39校からポスター54点、書59点が出品され、このうち、6月の地区審査で選定した16作品を県の審査会に推薦しました。

中部管内の全作品は、7月2日（土）から24日（日）まで宮崎県総合博物館に展示し、多くの来館者に鑑賞いただきました。

また、県の審査会に臨んだ県内各地区の代表83作品が、7月30日（土）から8月15日（月）まで大淀川学習館で展示されました。

小学校（中部地区）ポスターの部

金賞



恒久小学校5年
錦織 慧嗣さん

銀賞



穆佐小学校6年
細屋 希愛さん



広瀬北小学校3年
本田 美穂さん

小学校（中部地区）書の部

金賞



広瀬小学校2年
上田 笑愛さん

銀賞



住吉小学校3年
西島 愛華さん



広瀬北小学校6年
富浦 楓香さん

中学校（中部地区）ポスターの部

金賞



大宮中学校3年
成合 祥介さん

銀賞



佐土原中学校2年
江藤 璃音さん



加納中学校3年
船橋 七瀬さん

中学校（中部地区）書の部

金賞

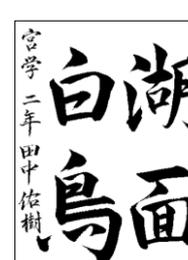


日向学院中学校1年
甲斐 櫻華さん

銀賞



宮崎西附中学校2年
堂領 美七海さん



宮崎学園中学校2年
田中 佑樹さん

高等学校（中部地区）ポスターの部

銀賞



日本大学高等学校1年
眞鍋 碧さん



日本大学高等学校1年
四位 明日花さん

高等学校（中部地区）書の部

金賞



クラーク記念国際高等学校
3年 吉野 菜さん

銀賞



クラーク記念国際高等学校
3年 村中 陽さん

[林務課]

地元選出県議会議員と中部地連協との意見交換会

8月2日（火）、中部地区における行政の一層の推進を図るため、宮崎市・東諸県郡選出の県議会議員と中部地方連絡協議会（中部地域の出先機関で構成）の所属長による意見交換会を開催しました。

まず、各所属の課題と取組の中から、右の5つの所属が説明したのち、福祉や教育など多岐にわたる行政分野について、各議員から御質問・御意見をいただき、有意義な意見交換を行うことができました。

新型コロナウイルス感染拡大を契機とした新たな県民ニーズに対応するため、今後も、各出先機関が互いに連携しながら、地域の課題解決に取り組んでいきます。

◆ 県立宮崎病院

「宮崎県病院事業経営計画2021」に基づく取組の推進について

◆ 中部農林振興局

農業担い手の確保・育成について
原油価格・物価高騰等緊急対策について

◆ 身体障害者相談センター

高次脳機能障がい者の支援について

◆ 中部港湾事務所

宮崎港における堆砂対策について

◆ 宮崎県総合博物館

県総合博物館の事業について



意見交換会の様子

[総務課]

水モン人気投票実施中!!

今回の「元気の芽」は、中部地連協に所属する宮崎県総合博物館で好評開催中の「モンスター水族館～深海魚とサメのひみつ～」の水族館モンスター（通称「水モン」）とコラボしています。

宮崎県総合博物館のホームページでは、8月8日（月）から8月28日（日）までの期間、**水モン人気投票**を実施しています。

ぜひ投票して、あなたの**推し水モン**を応援してください。



マコちゃん
(マッコウクジラ)

ラブカちゃん
(ラブカ)



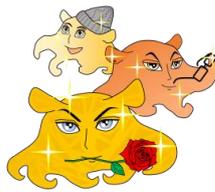
エントリーは全部で12体。投票待ってるよ。



カジカのおっちゃん
(ニュードウカジカ)



エビ・ガンナー
(テッポウエビ)



イケメンダコ
(メンダコ)



ギブアンドティク
(カクレクマノミ)



ドン・グソク
(ダイオウグソクムシ)



モンスター水族館
特設ページ

まずは総合博物館にお越しください!

自然生態系農業の推進で“選ばれる”産地へ

「健康」「ほんもの」を求める時代を見据えて

県央部に位置する綾町は、人口約6,800人で面積の約80%が森林の中山間地域です。「**照葉樹林都市**」「**有機農業のまち**」として知られています。綾町の基幹産業は農業で、昭和63年に「**自然生態系農業の推進に関する条例**」を制定しました。全国で初めて、まちを挙げて有機農業を推進することを条例化。化学合成肥料や化学合成農薬をできるだけ使用しない、土づくりを基本とした**環境保全型・循環型の農業＝自然生態系農業**に取り組んでいます。

この条例の狙いは、農業の安定的かつ長期的な振興と町民を含めた消費者の健康づくりです。大量生産・大量消費、経済成長優先という時代を「**将来、必ず『健康』『ほんもの』が求められる時代が来る**」という信念で乗り越え、安全で高品質の農産物をつくることに尽力しています。

農業全体で取り組む環境保全型・循環型農法



さて、「自然生態系農業って、有機農業とは違うの?」と疑問に思われる方もおられることでしょう。有機農業は、化学合成農薬や化学合成肥料に頼ることなく自然な土づくりを行ったうえで農産物を作る農業形態のことです。

綾町の自然生態系農業は、農協や野菜・露地園芸・果樹・畜産など幅広い分野の生産者が組織を作り、一体となって「**減農薬に取り組む**」「**除草剤を使わない**」などの環境に配慮した栽培に努めています。つまり、**町内の農業全体に環境保全型・循環型の農法を徹底する**という理念が存在しているのです。この点が、有機農業を進めているほかの自治体との大きな違いといえます。

近年、健康志向に加え環境保全やSDGsなどの観点から、消費者の食に対する関心が非常に高まっています。食品トレーサビリティの導入が進んでいるほか、有機JASに適合した農産物が消費者に選ばれる傾向も徐々に高まっています。こうした消費者動向に伴い綾町の農産物が求められる場面も増えており、ふるさと納税の返礼品としても高い人気を得ています。



有機給食、新規就農者支援・・・ 選ばれる産地を目指す

綾町では、自然生態系農業の推進をスタートさせた当初から、生産者だけでなく地域住民もその意義を理解し地産地消に取り組んできました。例えば、保育所や小・中学校では「**地産地消給食**」が導入されています。また、農業体験などの食育も盛んです。



今年度は、地産地消給食をさらに発展させ有機JASの格付けをされた農産物も使用する「**有機給食**」の実施に向けて協議を進めています。未来を担う子どもたちの健やかな成長を育み、ふるさとの取組を理解するよりよい消費者となるための機会になればと期待しています。

長年の自然生態系農業の取組は、就農を目指す若い世代に選ばれる魅力にもなっています。今後は新規就農者の支援などを通して有機農業の農地の拡大をはじめ地産地消・食育の推進を図り、「**有機農業のまち**」としてさらなる磨き上げに取り組む計画です。国は脱炭素社会の実現を目指し「**オーガニックビレッジ**」の創出を推進しています。綾町もオーガニックビレッジ宣言のもと、一歩進んだモデル地域となることを目指して挑戦していく考えです。

[綾町農林振興課]

「ほんもの」を追求した綾町の農産物を、ぜひ食卓へ